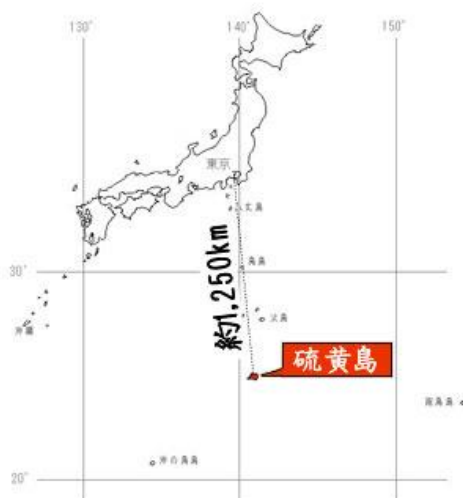


日本将兵の真実の叫び

昭和20年（1945年）2月19日米軍上陸から3月26日の玉砕までに繰り広げられた「硫黄島の死闘」は世界戦史に残る壮絶、絶後の戦いとして知られている。



日米の「島嶼（とうしょ）」に於ける戦いでは唯一米軍の死傷者数が日本のそれを上回った戦いでもあった。日本の守備隊は陸軍が栗林忠道少将（後に中将）率いる1万3,586名。海軍は市丸利之助中将率いる7,347名で合計20,933名。これに対し米軍は11万人の大軍を送り込んでの戦いであった。



栗林 忠道



市丸 利之助

戦死した市丸中将の遺した「ルーズベルトに与うる書」は、日本ではあまり知られてないが、米国では国民に大きな影響を与え、全米で大絶賛されたのである。この「書」に書かれた日本軍人の理想は「米国人の良心を動かし、形を変えて米国の理想となったのである。その証左として、この手紙は今もアナポリス海軍兵学校の博物館に展示されている。



メリーランド州アナポリスの海軍兵学校

市丸中将は生き残った196名の前で、最後の総員突撃を命じ、副官「間瀬式次」中佐が「ルーズベルトに与うる書」を読みあげ、『和文』は「村上大尉」が腹に巻き、『英文』は「赤田邦夫」中佐が身につけた。市丸中将は軍服の一切の肩章を外し、一人の皇国臣民として最後の突撃をされ散華された。

2枚の遺書は幸運にも発見されたが、市丸中将の御遺体は肩章を外している為、米軍には確認されなかった。市丸中将は「ルーズベルトに与うる書」の中で人が人として生きる事の大切さを示し、死しても尚、日本国が描いた壮大な理想、そして悠久の大義の為に戦い続けようとしたのである。この書はアメリカの唱える、アメリカの日本と戦う大義名分の矛盾を突いて余りあるものである。市丸中将の書は駆逐艦『清波』の艦長として戦死した父をはじめ、日本の全士官・全将兵が心の底から世界に訴えたかった主張なのであろう。今、戦争を知らぬ人々が多くなったし、また、米英からは「日本は侵略の目的で戦争を始めた」如く洗脳されている現在こそ、この市丸中将の「ルーズベルトに与うる書」を熟読し、日本が戦った真実を知って頂きたい。

今、世界は相変わらず強欲霸道国家や狂気の宗教思想組織や火病的独尊国家によって平和を乱され続けている。残念ながら今は、市丸中将や多くの靖国国の「御霊を案じ奉る」ようなご報告が出来る如き世界ではない。御霊が安心して眠れるような世界・御霊が死を賭（と）して望んで止まなかった平和な世界

を、我々日本人が創るためにも、我々日本人は「日本の国体・日本の国家の真意と精神」を深く学び直し、市丸中将や多くの将兵達の訴えであった「八紘一宇の思想」を凜として、胸を張って、世界に主張すべき時であろう。日本は侵さず侵されない「平和強国」として、世界の手本となる国家の国体を目指す教育改革システムが今、必要なのだと思う。

【ルーズベルトに与ふる書】

この「書」は市丸中将の死後、「死に臨んだ日本の一提督の米国大統領あての手紙」と題されて、米国の各大手新聞で、その全文が紹介された。また、戦後ベストセラーになったジョン・トーランドの「昇る太陽—日本帝国滅亡史」でも紹介され、全米で大絶賛された。

注) フランクリン・ルーズベルト

第32代アメリカ合衆国大統領。世界恐慌、第二次世界大戦時のアメリカ大統領であり、20世紀前半の国際政治における中心人物の1人。彼の政権下でのニューディール政策と第二次世界大戦への参戦による戦時経済はアメリカ経済を世界恐慌のどん底から回復させたと評価され、歴代アメリカ大統領のランキングでの人気投票で上位5傑に入るなど、現在でもアメリカ国民からの支持は根強い。その一方、日独伊の枢軸国勢力を敵視する一方でソビエト連邦の独裁者ヨシフ・スターリンに対する容共的な姿勢を取り、その侵略行為を黙認したことは批判の対象となった。また、人種差別主義者の一面を持ち、日系人の強制収容政策を推し進め、自由を束縛するとともに財産を放棄せざるを得ない状況に追い込んだ。



フランクリン・ルーズベルト

「市丸中将の遺書」

日本海軍市丸海軍少将がフランクリン・ルーズベルト君にこの手紙を送ります。私は今、この硫黄島での戦いを終わらせるにあたり、一言あなたに告げたいのです。

日本がペリー提督の下田入港を機として、世界と広く国交を結ぶようになって約百年。この間、日本国の歩みとは難儀を極め、自らが望んでいるわけでもないのに、日清、日露、第一次世界大戦、満州事変、支那事変を経て、不幸なことに貴国と交戦するに至りました。これについてあなた方は、日本人は好戦的であるとか、これは黄色人種の禍いである、或は日本の軍閥の専断等としています。けれどそれは、思いもかけない的外れなものと言わざるをえません。あなたは、真珠湾の不意打ちを対日戦争開戦の唯一の宣伝材料としていますが、日本が自滅から逃れるため、このような戦争を始めるところまで追い詰められた事情は、あなた自身が最も良く知っているところです。

おそれ多くも日本の天皇は、皇祖皇宗建国の大詔（たいしょう）に明らかのように、養生（正義）、重暉（じゅうき）：（明智）、積慶（仁慈）、を三綱とする八紘一字という言葉で表現される国家統治計画に基づき、地球上のあらゆる人々はその自らの分に従ってそれぞれの郷土でむつまじく暮らし、恒久的な世界平和の確立を唯一の念願とされているに他なりません。このことはかつて、

四方の海 皆はらからと 思ふ世に など波風の 立ちさわぐらむ

という明治天皇の御製（日露戦争中御製）が、あなたの叔父であるセオドア・ルーズベルト閣下の感嘆を招いたことで、あなたもまた良く知っていることです。私たち日本人にはいろいろな階級の人があります。けれど私たち日本人は、さまざまな職業につきながら、この天業を助けるために生きています。わたしたち軍人もまた、干戈（かんか）をもって、この天業を広く推し進める助けをさせて頂いています。

私たちは今、豊富な物量を頼みとした貴下の空軍の爆撃や、艦砲射撃のもと、外形的には圧倒されていますが、精神的には充実し、心地はますます明朗で歓喜に溢れています。なぜならそれは、天業を助ける信念に燃える日本国民の共通の心理だからです。けれどもその心理は、あなたやチャーチル殿には理解出来ないかもしれません。私たちは、そんなあなた方の心の弱さを悲しく思

い、一言したいのです。あなた方のすることは、白人、特にアングロサクソンによって世界の利益を独り占めしようとし、有色人種をもって、その野望の前に奴隷としようとするものに他なりません。そのためにあなたがたは、奸策もって有色人種を騙し、いわゆる「悪意ある善政」によって彼らから考える力を奪い、無力にしようとしてきました。

近世になって、日本があなた方の野望に抵抗して、有色人種、ことに東洋民族をして、あなた方の束縛から解放しようとする、あなた方は日本の真意を少しも理解しようとはせず、ひたすら日本を有害な存在であるとして、かつては友邦であったはずの日本人を野蛮として、公然と日本人の種の絶滅を口にするようになりました。それは、あなたがたの神の意向に叶うものなのですか？



日系人強制収容所

大東亜戦争によって、いわゆる大東亜共栄圏が成立すれば、それぞれの民族が善政を謳歌します。あなた方がこれを破壊さえしなければ、全世界が、恒久的平和を招くことが出来る。それは決して遠い未来のことではないのです。あなた方白人はすでに充分な繁栄を遂げているではありませんか。数百年來あなた方の搾取から逃れようとしてきた哀れな人類の希望の芽を、どうしてあなた方は葉のうちに摘み取ってしまおうとするのでしょうか。

ただ東洋のものを東洋に返すということに過ぎないではありませんか。あなたはどうして、それも貧欲で狭量なのでしょう。大東亜共栄圏の存在は、いささかもあなた方の存在を否定しません。むしろ、世界平和の一翼として、世界人類の安寧幸福を保障するものなのです。日本の天皇の神意は、その外にない。たったそれだけのことを、あなたに理解する雅量を示してもらいたいと、

私たちは希望しているに過ぎないのです。

ひるがえって欧州の情勢をみても、相互の無理解による人類の闘争が、どれだけ悲惨なものか、痛感せざるを得ません。今ここでヒトラー総統の行動についての是非を云々することは慎みますが、彼が第二次世界大戦を引き起こした原因は、一次大戦終結に際して、その開戦の責任一切を敗戦国であるドイツ一国に被せ、極端な圧迫をするあなた方の戦後処置に対する反動であることは看過することの出来ない事実です。あなた方が善戦してヒトラーを倒したとしても、その後、どうやってスターリンを首領とするソビエトと協調するおつもりなのですか？

注) 第一次世界大戦後のドイツのハイパーインフレ

ドイツに課せられた過酷な戦後賠償金が原因で、リヤカーに札束を満載しなければ買い物が出来ない程の深刻なハイパー・インフレーションに悩まされた(ドイツマルクの暴落)。



およそ世界が強者の独占するものであるならば、その闘争は永遠に繰り返され、いつまでたっても世界の人類に安寧幸福の日は来ることはありません。あなた方は今、世界制覇の野望を一応は実現しようとしています。あなた方はきっと、得意になっていることでしょう。けれど、あなたの先輩であるウィルソン大統領は、そういった得意の絶頂の時に失脚したのです。願わくば、私の言外の意を汲んでいただき、その轍を踏むことがないようにしていただきたいと願います。

市丸海軍少尉

【あとがき】

市丸利之助（いちまる りのすけ）

1891年（明治24年）9月20日生—1945年（昭和20年）3月26日。日本海軍軍人。最終階級は海軍中将（戦死による特進）。佐賀県東松浦郡久里村（現在の唐津市）出身。

市丸少将は遺書としてアメリカ大統領フランクリン・ルーズベルトに宛てた『ルーズベルトニ与フル書』をしたため、これをハワイ生まれの日系二世三上弘文兵曹に英訳させ日本語、英語各一通を作りアメリカ軍が将校の遺体を検査することを見越してこれを村上治重大尉に渡した。村上大尉は最後の突撃の際にこれを懐中に抱いて出撃し戦死。

『ルーズベルトに与フル書』は目論見どおりアメリカ軍の手に渡り、7月11日、アメリカで新聞に掲載された。それは日米戦争の責任の一端をアメリカにあるとし、ファシズムの打倒を掲げる連合国の大義名分の矛盾を突くものであった。

「卿等ノ善戦ニヨリ、克（よ）ク「ヒットラー」総統ヲ仆（たお）スヲ得ルトスルモ、如何ニシテ「スターリン」ヲ首領トスル「ソビエットロシア」ト協調セントスルヤ。」（ルーズベルトは4月12日に死去したため、『ルーズベルトに与フル書』は、本人は目にしていないとみられる。）

尚、公式な戦死日は決別の電報が打電された3月17日とされている。市丸の最期を確認した者はおらず、御遺体も発見されていない。市丸が所有していた刀を米兵が拾い、ニュージャージー州の骨董店に並べられていたが、市丸の遺品であることが判明し、NHKのテレビ番組を通じ御遺族の元へ戻っている。

詳しくは

<http://nezu621.blog7.fc2.com/blog-entry1416.html>（此方より抜粋）

平成27年4月15日

志雲会塾長 有馬 正能